

令和 7 年度 技術情報第 5 号

いちご うどんこ病

令和 7 年 12 月 23 日
静岡県病虫害防除所長

**中遠地域でいちごのうどんこ病が平年より多く発生しています。
その他の地域でも被害の発生、拡大のおそれがあるため、
防除に努めてください。**

1 発生状況

- (1) 県病虫害防除所による令和 7 年 12 月上中旬のいちご巡回調査では、県全域におけるうどんこ病の平均発病株率は 3.1% (平年 1.1%、平年比 2.8 倍) と平年より多く、発生面積率も 13.3% (平年 8.4%、平年比 1.6 倍) と平年より高かった (表 1)。
- (2) 地域別の発病株率及び発生面積率は、東部では発生なし (平年 1.4% 及び 8.0%)、中部では 0.4% (平年 0.9%) 及び 10.0% (平年 12.0%)、中遠では 9.0% (平年 1.1%、平年比 8.2 倍) 及び 30.0% (平年 5.0%、平年比 6.0 倍) と中遠で多発していた。(表 1)。
- (3) いちご病虫害防除員 6 名からの報告によると、本種の発生について 3 名が「やや多い」または「多い」と回答した。

2 防除対策

- (1) 胞子の発芽適温は 20℃ 前後であり、施設内は本病の発生に好適な環境となるため、予防に努める。
- (2) 株が過繁茂となると発生が助長されるため、下葉除去を適切に行う。また、結実や収穫による草勢の衰えや、窒素肥料の過多も発生を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- (3) 発病果実や茎葉は有力な伝染源となるため、ハウス内に放置しない。速やかに除去し、ビニール袋に入れて腐らせるなど、適切に処理を行ってから処分する。
- (4) 多発生すると防除が困難になる。ほ場をよく観察し、発病が少しでも見られた場合は早急に防除する。その後も 1 週間程度の間隔で薬剤散布を行い、初期防除を徹底する。
- (5) 薬剤防除については、[「静岡県農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」](#)を参照する。薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (6) 不明な点については、病虫害防除所、最寄りの農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

表1 県内各地域のいちごにおけるうどんこ病の発生状況(12月上中旬)

		東部	中部	中遠	県平均
発病株率(%)	本年	0	0.4	9.0	3.1
	平年	1.4	0.9	1.1	1.1
発生面積率(%)	本年	0	10.0	30.0	13.3
	平年	8.0	12.0	5.0	8.4

注) 各地域10ほ場、1ほ場あたり50株を調査。



図1 葉における病徴



図2 うどんこ病の多発による巻葉症状



図3 肥大期の果実における病徴



図3 成熟した果実における病徴

【問合せ先】 静岡県病虫害防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

